

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>・「個人の尊厳を大切に」「画一性、押し付けの排除」「地域社会との融合を図る」の理念のもと、地域の中で、地域の方々との交流を大切にしながら、地域のボランティアさんの協力も頂いて毎朝の天神への散歩が続いている。また、クリーニング屋さん、向いのお店等への買物等による交流も利用者さんのなじみの生活を支えている。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>・ユニット会議の時間の中で、リーダー会議の共有、理念の浸透によるケアに向かえるようにアセスメント、モニタリング、援助計画を共有し、日々の実践への模索している。</p> <p>・個人の日々の生活が和やかに送れるように、個々の人格を大切に、支援・実践に取り組んでいる。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>・ユニットにおける利用者さんの生活や状況を運営推進会議で地域の代表の方へお伝えしながら、理念の実践を分かち合っている。</p> <p>・ご家族の皆さんへは来所時、援助計画の評価の時点で様子を日ごろの様子をお伝えする。また、広報誌を通して、ユニット全体として日々の様子や地域との有様をお伝えしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>・散歩時にはすぐ近所の方に、「おはようございます」「行ってらっしゃい」と笑顔で交換している。体調を崩して外に出られない時、ご近所の方が「しばらく見ないようですが、あの方は調子が悪いのですか」等心配して声をかけてくれたり、お隣の畑で取れた野菜を皆さんにとくさったり等のお付き合いをいただいている。ご近所の歯科医院、整形外科医院での受診時はDr.や看護師の皆さんが、利用者さんが一人でも受診ができるように、受診終了時には電話で知らせてくれる等、支えてくださっている。</p>	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>・小学校の運動会、長岡京市文化行事、ガラシャ祭り等へ積極的に参加し、楽しんでいる。またカトリック幼稚園の子どもたちが年に6回ほど来てくださり、七夕祭り、勤労感謝の日等、交流をもち、小さな子供たちとの交流は、お互いが存在を大切にする時間となっている。</p>	<p>○ 地域の敬老会への参加等へのはたらきかけていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>・長岡京市の安らぎ支援講座受講者の実習を受け入れ等により、地域の有識者、体験者の方にも実体験をして頂き、高齢者を支えていくことへの模索を市と共に考えさせてもらっている。</p>	○	<p>・ご近所の方、中学生、高校生などこれから未来に向かう子どもたちにグループホームの存在を知ってもらい、高齢者との関り等、お互いが貢献し豊かな人間関係創造にも役に立っていかれたらと思う。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>・自己評価の取り組みはほとんどが初体験であるが、ユニット会議での話し合い、次なる改善、創意工夫の一助としている。</p>	○	<p>・スタッフはなかなか自分たちの職場での体験から出られないところもあり、他のGHとの交流等も模索していきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・2月に一回運営推進会議が開催され、ユニットとしての現状を報告させてもらい、その場で聞かせてもらう意見や情報を大切に活かしている。</p>	○	<p>・運営推進会議での検討内容がスタッフ一人ひとりのケアに十分生かされるように、議事録の提示の仕方にも工夫していく。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・管理者よりの市町村との連携の現状をその都度分かち合ってもらい、地域とのつながり・・・安らぎ支援の実習等で実習生の様々な経験等・・・スタッフの視点の広がり和服务の質の向上に結んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>・実際に利用者さん本人が決定できない入院等の課題や問題に向き合いながら親族のご事情等も含めて、解決のために権利擁護に関する成年後見人制度の認識を深めている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・スタッフは外部研修を通して虐待防止法等、認知症ケアについて学んでいる。利用者さんを受け止めきれない未熟な気持ちを抱えながら、そうした気持ちを家族や職員がひとりで抱え込むことなく、共に分かち合いながら、全体としてまた一歩を踏み出していき、そうした関係を大切にして虐待防止につなげ、入居者さん、職員が共に守られることに努めている。</p>	○	<p>・認知症ケアについてさらに学び、利用者さんの側に本当に立てる介護スタッフとなるための、自己覚知を深める研修等への参加し、実践につなげていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>・直接的な不満の言葉ではなくても、利用者さんが分かってほしい気持ちを本当に受け止めていけるスタッフへと共に成長しているように研修等により育てていく。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	<p>・低下に伴い、身体的な変化等、家族にとっても今後はどのような状態になっていくのか、次なるステップへの不安を抱えておられる。それはターミナルケアの課題でもあり、ご家族や他職種の協力を仰ぎながらターミナルケアが実践できる運営体制を整えていきたい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	○	<p>・ハード面における整備改善については大家さんの許可が必要であり、大家さんとの協力と連携も運営面には欠かせないものとなっている。現実での課題改善のためにも大家さんに理解をして頂き、協働していただけるように運営の方からはたらきかけてもらう。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	○	<p>・利用者さんの高齢化に伴い、ケアの課題と職員の過重負担の課題の解決と新たな創造を考えていかなければならない。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・スタッフの異動で利用者さんへのケアの質の変化、ダメージを与えないように、経験者の同伴研修等、理念に添い一貫したケアが保たれるように努力をしている。何よりもチームケアが大切であり、スタッフ間の気持ちが一つになることにより離職も最小限に抑えたいと努力をしている。</p>		<p>・スタッフが定着することで、理念が深まり、お一人おひとりの尊厳を大切にされたケアの本質が深まることで、魅力ある職場作りにつながり、更にはスタッフの成長に繋がることと期待している。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・スタッフの勤務体制の制約の中で、様々な研修の情報の提供をもらいながら、スタッフ個人の意志や希望により研修参加している。ユニット会議で研修の報告の分かち合い等で日常へのケアに生かすように努めている。</p>	○	<p>・スタッフの全員が定期的な研修体系に組み込まれるしくみが模索されている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・長岡京市の主催である「やすらぎ支援員」の講座実習生で、現役同業者、経験同業者が当施設に実習生として来所という交流も大切にしている。他事業所を含めた全社的な研修を通して、他事業所の職員の方との交流や情報や智慧の交換の場もある。</p>	○	<p>・自分たちの職場の向上のためにも、年々利用者さんの高齢化、機能低下の実態に向き合い、理念に沿ったケアをしていくためにも他の同業者との交流をさらにはかっしていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・スタッフが休憩できるように、休憩室等は準備されている。福利厚生として、スタッフにポイントが供給され、買物、旅行等に使用している。全スタッフ間の交流の場として、いくつかのグループに分かれて、職場レクリエーションがある。ユニット独自として時間外に、1,2ヶ月に1回の交流会を持っている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・お一人おひとり、一回一回が違う出会いや出来事の連続の日々であり、スタッフの問題意識を何よりも大切にしている。率直な問題意識が向上心に向かい、同時に、資格習得への挑戦(ホームヘルパー2級、介護福祉士等)へと励まし、そのための勤務調整もお互いに協力している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・利用者さんの不安な気持ち、何を求めているのか、日々の生活の出来事の中で良く傾聴し、信頼関係を築きながら、肯定的な関りに努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時に家族の疑問、不安な気持ちを聞き、受け止め、お応えできるように努力をしている。また面会来所時にも些細なことであっても聞かせてもらいながら、援助計画に反映できるように努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談を受けたときは、よく傾聴させてもらい、何を支援させてもらうのか、明確に速やかに対応できるように努めている。何よりも今までの利用者さんの趣味等、なじみの生活が大切にされるように支援に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・本人の思いや傾向を大切にスタッフや利用者さん、生活に慣れてもらうように関りに努めている。入所したばかりの時は、緊張感や戸惑う気持ちで一杯であり、家族がよりどころとなっているので、家族に話している気持ちに添えるように関りを持ちながら、本人の望んでいること等の傾聴、家族と相談する等努めている。(他者とのこだわり、自由にならない買物等への気持ち・・・)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・人生の大先輩であるお一人の人間として生きてこられたその道のりに畏敬の念をもって出会うことに努めている。今までの体験や思い出等、生活の一コマの中に、特に散歩や、入浴等も介在に聞かせてもらいながら、妻として、母として、働く女性として、生き方等喜怒哀楽と共に、様々な角度から学ばせていただき、お互いが支えあい、深まりあう関係に努めている。	○	・利用者さんの持つておられる条件を介在に支えあう関係を模索しているが、その条件の可能性を少しでも広げた出会いを持ちたい。車椅子での移動しかできない利用者さんの散歩、外出・戸外で共に過ごす時間を増やす等、一緒に生き生きとした生活の糧にしていく。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・来所時等にご家族の立場、思いを聞かせて頂き、受け止め、支援されてこられた喜怒哀楽の歩みを聞かせてもらい、一緒に本人を支えていく気持ちであること、少しずつ信頼関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・ご家族との出会いは、今まで見えていなかった家族との関りを知り、また、認知症の介護スタッフだから見える日々の様子を話させてもらったりする中で、一緒に支えていく思いが強くなり、それがご本人とご家族のよりよい関係を築いていくことにつながっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な方は年一回の小学校の同窓会、年に数回娘氏宅に行ったり、時ある毎に友人知人にはがきを書いたりする習慣を大切にしている。 ・近隣の方が他階におられ、その方を訪室することも大切にもらえるたらきかけをしている。 ・神社等参りをずっとされていた方には毎朝の散歩として神社参りが継続されている。 ・あまり外出はされない方は、今まで培ってきた技術(編み物、百人一首等)、習慣(読書、新聞読み)等大切にもらうように努めている。 		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・生活環境の違い、考え方の違い、機能の低下の違い、そうした違いに悪気なく反応されることが多く、時々トラブルとなることがあるが、正邪、善悪で判断することなく、お互いを受け止めあえるようにスタッフが介入しながら、支えあうように配慮している。 		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	自立に向かい、2007年1月に退所された方は、近くのマンションで家族の支えも受けて、一人暮らしをはじめ。今でも、時々現状の大変さをスタッフに話し、スタッフが励ましたり、ボランティアをしてもらったりしながら自立を見守らせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりの一日の体調、気分、培ってきた生活習慣等違いが様々で、同時に全てを満足していただけるような関りはできないが、個々人の希望や思いを否定することなく、肯定される関りの中で、ご本人がご自分で状況を判断されることも多くなっている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の出会いの中で、過去のことを聞かせてもらうことも多くあり、その中でこれまでの暮らしを受け止め理解させていただき、ご本人を知ることとケアに向かう大切な情報となっている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・朝のバイタルチェック、入浴時の身体変化のチェック等を行いながら、何よりも身体機能の低下を防止できるように工夫をしている。 ・歩行力、排尿、排便力を保てるように歩行時の歩き方、トイレ誘導による排尿を促し、また生活の中では他のために役立ちたい気持ち、調理や後片付け手伝い、好きなことに向かう集中力の保持等総合的に把握し、日々活力に結べるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ご家族の方にも現状をお伝えしながら、ご意見もお聞きしたり、月一回のユニット会議におけるケアカンファレンスによって、スタッフの意見やアイデアを確認し、それらを介護計画に盛り込んでいくことを基本に作成している。	○	・スタッフの一人ひとりが利用者さのと援助計画の大切さと関心を深め、援助計画を作成できるように成長していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・援助計画の実行は最低3ヶ月ごとに、評価を行い、見直し、次なる援助計画の作成に努めている。特別な変化(入院等)の場合は、その時点で現状に即した援助計画の作成に努めている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々、一人ひとりの様子やケアをケース記録として残している。その記録を元に、アセスメント、モニタリングとして記録に残しながら次なる援助計画に向かっていく。	○	・個別の記録を大切に残していくことは、記録作成に時間を要すことになり、他スタッフの業務負担増につながることもあり、端的に援助計画に結ぶ記録内容の精査、フォーマットの見直しもしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・当所では、居宅訪問サービスがあり、ホームヘルパー、ケアマネージャーも在中し、在宅での智慧、他施設の智慧を教えてもらったりすることができる。大腿骨骨折、圧迫骨折のある方が退院後の歩行を模索時、歩行器使用の助言と、他施設の歩行器をお借りすることができた。そのような関りも持ちながら柔軟な支援となっている。	○	・訪問介護をされている方に、自力入浴が困難になってきている利用者さんの入浴介助の智慧の交換など教えてもらう機会を増やしたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・現時点では、習字が好きな方が、地域の習字の先生に習字を做ったり、絵の好きな方が絵を做ったり、地域の高齢者のバンドの訪問等、地域のボランティア等に協力を頂き充実した生活の支援につなげている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>・大腿骨骨折され退院される方の受け入れ時、事業所内のケアマネジャーさんの紹介で、福祉用具のサービスのベッドの手配をしていただいたり、障害者手続きの助力を頂いたりしている。</p>	
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>・ご家族さんはできるかぎり、当ホームで過ごすことができることを願っている。病気等で長期入院になった時等への心配もされておられ、運営推進会議、家族さんとの交流会に地域包括センターの方の出席を頂いて、長期的なマネジメントをしてくださるシステムがあることで安心する。</p>	<p>○</p> <p>・高齢化、機能低下に伴い、何時までグループホームにいられるのか、そのような心配をされておられる家族もあり、地域支援ということも含め、これから地域包括センターとの協働も大切にしてい</p>
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・基本的にはご本人・ご家族の希望のかかりつけ医の受診体制が整備され、安心して受診してもらっている。</p>	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>・ご家族の判断等、特に認知症専門医等の受診支援は受けていない方も多いが、利用者さんが今までの関りも含めて個人的に通院されている方もおられる。また、認知症専門医の研修会等への参加により、スタッフの認知症理解やケアに役立てている。</p>	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>・当ホームの看護師に日常の健康管理や受診の判断及び医療活用の相談をしている。 ・緊急時や特変時はそれぞれのかかりつけ医、またはその医院の看護師の連携の中で医療管理をしてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>・訪問看護ステーションとの契約のもと、24時間オンコールで全員の利用者において医療管理体制とする(現在は必要と感じているご家族のみ)</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>・入院された利用者さんには、退院後の生活がよりスムーズになっていただけるように、見舞いに時々行く。利用者さんが長期入院になった時にご家族も、病院のDr.も帰るところを心配され、入院中にそういった問い合わせも実際にあり、双方で現状を確認し退院後のケアを含めて情報の交換をする。また、ご本人の治療拒否で退院になった方もあるが、その方の関り方については地域医療相談でアドバイスを頂く等医療機関とも連携をとっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・ユニットにおいては終末期を迎えた体験はない。終末期に対してのあり方はとても難しい取り組みだと感じているが、スタッフの気持ちとしてはお一人おひとりの終末期のケアさせて頂きたいと願っている。	○	・重度化、ターミナルケアについては、身体介護と共に精神的な課題が多くある。また、お一人の課題は、他の利用者さんの介護に十分な配慮ができなくなる恐れもあり、ターミナルケアは運営も含めて、より確かな方針の打ち出しと共有が必要である。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・現時点では、皆さんお元気に過ごされておられるが、高齢化に伴い、ご家族、ご本人の気持ちを考えた時に、何とか、どうにかして最後までケアをさせていただけないかというスタッフの思いである。 ・様々な課題があり、チームでの支援の取り組みは職員の意識の深まりを大切にしている。	○	・スタッフの気持ちとして、利用者さんには人生の末期を本当に大切に過ごしていただきたいと願っており、今後、その意識の深まりと正しい終末期ケアを学んでいく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・現時点で住み替えの利用者さんはおられない。昨年1月に退所された方については退所にあたって、ご家族の考え、本人の気持ちををしっかりと伺い、情報の交換の中から、近くである現住所地となり、今もスタッフが気遣いをし、関係を大切にしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・お一人お一人の誇りやプライバシーを大切に言葉遣いや対応を心がけている。お一人の言葉や動作の中にその方の人生の歴史が刻まれている。それらの重さを大切にしたいと願い、傾聴し、その方の理解につなげている。その方の存在の肯定を何よりも大切にしている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・指示することなく、利用者さんお一人おひとりが自分を表現し、それを受け止めるコミュニケーションを大切にしている。圧迫骨折等から坐骨神経痛で痛くて気力も落ちておられた方が「編み物をしたい」「習字も楽しい」と言われるようになったり、「何かお役に立つことありませんか」と食事時の手伝いを申し出てくれる、「自分は難しいことはわからない、できそうなことならしますから言ってくださいよ。」・・・そうした自主的な気持ちに何よりも応え形に結べるように支援に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・「今日は何をしてくださるんですか。」「今日は歌を歌いたいです」「百人一首をしたい」「家に帰らにゃあいかん。」「手伝わずにはおれん」お一人おひとりの思いとことば、風邪をひいた後歩行を力が少し減退した様子の方、自由に動けなくて何をしたらよいかわからないと訴える方、あまり皆と合わせるの苦手の方、天気が悪く、散歩に行かれない日・・・何よりもお一人おひとりの思いと安全を願い、その気持ちを受け止め、ゲームをしたり、歌を歌ったり、体操をしたり、話をしたり、絵を描いたり・・・と無理なく、形に結んでいけるように支援に努めている。ゲーム等への参加を好まない方でもその場いながら新聞を読んだり、また入室してTVをみたり、ごろ寝をしたり、それぞれのペースを大切に支援し、見守らせて頂いている。</p>	○	<p>・スタッフの配置人数、配置体制の中で十分な時間がとれないことも多々あり、身体介護の時間の増加と支援が今後の課題である。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>・自己決定できる方は、美容院等に行かれています。月一回は美容師さんが訪問してくださり、その方に似合ったカット、顔そり、爪の手入れ等もしてもらっている。</p> <p>・起床時、入浴時には身だしなみ、服装等一緒に整えている。</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>・昼食づくり、夕食作り、時間になると、必ず台所に来る方、「何か手伝います」と申し出る方、そんな様子を見て、自分も何かできることを思われ動きが活発になったりする。卵焼きが得意だった方には卵焼きをしてもらい、器用面に平等に盛り付けをされる方、何よりも安全に配慮しながら、無理のないように、休憩時間を取り入れながら行っている。後片付けも自主的にされ「しんどくなったら変わってくださいっていいますからご心配なく」等、コミュニケーションも多くなることにより、楽しみな時間になっている。</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>・おやつ時間の他に、間食の習慣がある方、ない方、ご家族が持ってこられる好きなもの、手元におやつがないからと近くのショップに買物に行く方、お茶の好きな方、それぞれのペースを大切にしている。おやつに関しては、ご家族よりおやつの内容や、賞味期限等確認させてもらい、何より安全に気をつけ頂きながら支援している。</p>	○	<p>・今後の課題として、高齢化と共に食事中のむせこみ、咳き込みも見られ、ご本人が周りを気にされることがあり、安心して食事の時間を過ごせるように状況把握を常に努め、好みのもの、食べやすい形態等きめ細かい個々への配慮を考えていく。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>・トイレ通いが頻回の方、排泄回数が少ない方、尿意、便意がはっきりしない方等は、それぞれに応じ、水分チェック、排泄チェックをしながら、出来るかぎり自力排泄を促すように2時間おき、起床時・就寝前等決めて支援している。何よりもその方のADLの状態もあり、羞恥心には最大限の配慮をしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・時間や順番などのきまりはなく、入りたい時に入れるように、一回一回一人ひとりの気持ちを大切にしている。 ・排泄状況、体調への配慮をしながら、心身ともにリフレッシュしてもらえらるるように、入浴時も利用者さんとのコミュニケーションをとりながら努めている。	○	・その方が入浴を嫌がる背景の理解や羞恥心の課題を含めた入浴が嫌いな方に快く入浴をしてもらい心身のリフレッシュを感じてもらえるような関わりの模索。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・季節により、体調が異なる方、冬場は咳がでやすい方、日中ほとんど食事のお手伝いをやって後で疲労したりしてしまう方、日中の休息のリズムをとってもらおう等の支援も大切にしている。冬になって夜間の失禁が目立ち始め、羞恥心でそれを隠してしまうこともあり、安眠の妨げにならないように時間を見計らい、夜間にトイレ誘導を試みている。 ・夜勤帯において、歩行不安定な方は転倒防止のためにナースコールできる方はナースコールをしてもらい、トイレ誘導、ナースコールのできない方は見守りの徹底により安眠につないでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・編み物、習字、絵を描くことが大好きだった方、合唱をしていた方、主婦としての台所仕事、片付け等、日々の生活の中に取り入れている。歌が好きの方は歌ビデオに集中し、手拍子をたたきながら歌ったりして集中、充実した時間をすごしている。台所仕事は年齢を重ねても女性にとっては張り合いのある仕事となっている。 ・一人で外出は困難なことが多く、室内での生活が中心になりがちで、「息が詰まりそうだから外へでたい」と希望される方もあり、安全を守りながら外に出ただけのように、行動の様子等を見守り、できる限りは外出に結んでいく。天候により外出が困難なときはドライブに出かけたり気分の転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金の個人管理は紛失等の恐れがあり、スタッフ管理とし、必要に応じて個人が消費している。一人での支払いが無理な場合はスタッフが変わりに手伝い、常に収支を出納帳に記入している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の天神への散歩は天候のよい日は毎日。 ・花のみずやり、近くのお店への買物、郵便局へ手紙の投函、その日その日の希望で戸外での活動も大切にしている。 ・庭のテーブルでゆっくりとくつろぎながらお茶の時間も持つように努めている。 ・季節に応じて、近くの神社への花見(初詣、梅、桜、紅葉)、ドライブでは4季折々の景色を楽しんでいる。 		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・夕方のドライブではクリスマスイルミネーションを見に行ったりしている。 ・おやつを買いに出かけるのも楽しみな外出となっている。 ・元気な方は一日かけて植物園へと遠出もしている。 ・ご家族との外出、外泊もご本人のお気持ちを大切に支援をしている。 ・誕生日をホテルのランチを希望されて、全員で景観の良いホテルに出かけ、全員でのランチタイムをもったりしている。 ・バーベキュー、みかんがり、市民祭り等への見学・参加等している。 		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話をもってもらい、家族とよく電話で話されている方もおられる。電話で体調の不良を伝えたりすることはスタッフも確認しご家族とも確認している。ご家族や友人にはがきを書きたいと、はがきの購入、投函等見守っている。コミュニケーションをはかり、その方の習慣を大切にしている。 		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族、友人がこられた時は居室に入って頂いてゆっくりしていただき、お茶をお出ししている。お昼ごはんを一緒にされたり、おやつを一緒にされたりしながら楽しいひと時を過ごしてもらっている。遠くから来られるご家族と一緒に泊まりたいと希望される時は、貸布団の準備もさせてもらい、気軽に、居心地のよい時間を過ごしていただくように工夫している。 		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な面での身体拘束をしないケアに努めている。骨折し、歩けない方は車椅子での移動中心の生活になるが、移動時のみ車椅子使用。テーブルに着いた時は椅子に移乗してゆっくりしてもらっている。 	○	・定期的な「自己チェック」を実施し自分の言動を振り返る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>・徘徊のある利用者さんが、外で自由に歩くことができる生活の充実と共に内なる充実した生活をもっと見出していく。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・転倒の恐れのある方、歩行困難な状態の方、一人ひとりが病気、怪我へのリスクを持っていることを、ご家族来所時には現状として伝え、一緒に考えてもらい、抑圧感のない安全で安心のある生活に心がけている。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・朝のバイタルチェック、入浴時の身体変化のチェックを行う。異変については状態を適確につかみ、冷静に迅速に主治医への連絡指示を仰いでいる。体調の変化については、スタッフ全員が同じ認識に立ってケアに向かえるように申し送る。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・お一人おひとりの持病と服薬の目的、副作用等を理解してスタッフが管理を行っている。 ・短期に服用する風邪薬等は、改善等症状を見ながら、かかりつけ医の指示を確認し服薬。 ・処方箋管理表及び服薬管理表の徹底記入をしている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・高齢化と共に自力排便の困難な方も増えて、かかりつけ医より緩下剤使用の方もおられ、そのお一人おひとりの状態をみながら、水分の摂取、繊維の多い食べ物の提供等の工夫をしている。また適度に身体を動かす等により便秘を予防している。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・嚥下時にむせ込みのある方等は、毎食後の口腔ケアにより口腔内の清潔を保持している。また、口腔ケア時に義歯の状態を見守り、必要に応じて受診につなげている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養管理については栄養士がサポートしている。お一人おひとりの状態や体調による個人差を鑑みながら毎回の食事量を記録し、習慣、好み等も考慮して、できるだけ刻む等の工夫もして食べ易く、バランスもよい状態で食してもらえるように支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症へ予防として、散歩等外出よりの帰所時は、手洗い、煎茶によるうがいの励行をしている。また食事、おやつ時の手洗い、ウェルパスでの消毒等行っている。手摺、ドアノブ等は希釈した塩素系の洗剤で拭いている。 ・トイレ時は、トイレ専用のエプロン、手袋の使用しての介助をしている。 ・感染症発生時の対応として、マスク、手袋、エプロン等を常時準備している。 		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・日中、食器等は使用後に希釈された塩素系洗剤につけ置き消毒とし、洗いの後、85度Cの乾燥機で乾燥している。夜勤帯において、一日一回、調理用具を希釈塩素剤で消毒をしている。 ・食材については日々青果店、精肉店等より配達してもらって新鮮で安全な食材を早期使用をしている。消費期限使用は徹底されている。 		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんが何よりも生活感があり、気持ちに落ち着きと安心感があるような庭先になっている。家族、近隣の方々も入りやすくなっている。玄関ドアもガラス張りで明るく親しみやすくなっている。洗濯物干し場、玄関周りには四季折々に利用者さんが草花をプランターに植えられ生活感あり、テーブルやベンチを置いて、ティータイムも楽しむことができる。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・課題としては、かなり交通量の激しい道路に面しており、庭先の広さをもう少し確保でき、更なる安全への整備をしていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・1Fは玄関とつながっており、玄関内の棚には季節の花が生けられ、置かれたソファーに腰をかけてゆったりとできたり、外来者に親しく接する機会も多くあり、自由な行き来は、家庭的な空気をかもし出している。 ・居間・兼食堂はスペース的には狭さを感じることもあるが、テーブルの配置を工夫したり等、共有空間に暖かさや居心地のよさを感じさせている。 ・大きな浴槽は、ゆったりと入浴を楽しむことができ、介助を通して、利用者さんと親しくコミュニケーションをとることのできる場となっている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・1階のトイレは、使用者数も多く、使用頻度も多いので、換気、清潔感の保持が常に課題となっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・居間のテーブルの配置を変えたり、食事の時以外は、利用者さんが、その都度、自由に好きな席に座って好きなことをしたり、また何人かが集まってゲーム、合唱等したりしている。同じ空間にしながらもそれぞれがしたいことをしていても違和感がなく、穏やかで落ち着く空間と、元気で明るい空間を皆さんが作り出しておられる。 ・疲れた時等、自分の体調や気分も大切にされて、一人になりたいときは、居室でゆっくりとされている。 		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・畳を上ふとんを敷いて就寝することを生活習慣にしてこられた方は、その習慣を大切にしている。家具等は、今まで使用してきたものや、家族と相談し、自分の好みの座椅子を使用したりしている。またお花を好きな方は、植木鉢等も置いたりそれぞれの好みと工夫を大切に生活の場を作り上げている。 		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・換気は季節よりの配慮を心がけている。外気温との差や、ご本人の一日の居室内での生活時間やリズムに気を配りながら、こまめに空調の温度調節を行っている。 		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・もともと「会社の寮」の改修しての建物内部ではあるが、できる限り安全で自立した生活が送れるように工夫はされている。利用者さんも満足されているが、改修後の5年の経過していることでの修繕、高齢化に伴いさらなる工夫も要請されてきている。 		
86 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・居室入り口には手作りのネームプレートがかけられ、居室内においては、ご家族がタンス等に整理していただけるように、「上着、下着、くつした」等の名札を張って下さる等の工夫をされている。利用者さんの中には「私は分からないから、あなたが覚えておいてくれれば、あなたに聞くことで安心だから」と、スタッフとの気持ちの交流の中で、分かる力を大切にしている。 		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・1Fは自由に庭先に出て草花の世話、外のテーブルでのくつろぎ等をする等、内外の交流を身近に活かした生活を大切にしている。また、他ユニットの行き来も自由にでき、他階のベランダでゆっくりと景色を眺めて自然の広がりを感じることによって気持ちのリラックスをはかることもしている。 		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

事業所の理念（以下）を実践に結んでいくことを大切にしています。

【事業所の理念】

●画一性、押し付けの排除、

●個人を尊重し、自分の一番居やすい場所での生活を続けられるように援助し適応できる事業所です。

それは何よりもお一人おひとりの存在の尊厳、同じ人間として共に生きる者として一回一回の出会いを大切にさせて頂きたい、スタッフ一人ひとりの気持ちの上に成り立っていくものであることを思います。利用者さんとの出会いによりスタッフは成長させてもらい、成長していくスタッフの気持ちにより利用者さんの気持ちとつながり、そのつながりの中で、お一人お一人が充実感と安心感、個性を輝かせながら、居場所を見出して頂くこと、それが家族の安心へと結んでいけたらとケアの模索をしております。